# これからの病院図書室に求められるもの

## ── 白方誠彌会長に聞く ──

話し手：白方誠彌先生
近畿病院図書室協議会会長
淀川キリスト教病院院長
聞き手：小田中徹也氏
近畿病院図書室協議会事務局長
国立京都病院図書室司書
前田元也氏
「病院図書室」編集部部長
西淀病院図書室司書

**小田中**：本日はお忙しい中、お時間をとっていただきまして本当にありがとうございます。白方先生には、私どもの近畿病院図書室協議会の会長として1990年から6年間、病院図書室の発展にご尽力をいただきました。この度、定年退職されるということで会長職を退かれるわけですが、この場をお借りして改めて御礼を申し上げます。

さて、この間病院図書室をめぐる環境、とりわけ、医療環境や図書館・情報関連分野の環境が大きく変化してきており、病院図書室も新しい対応が求められていると思います。そこで、これらの変化の中で期待される病院図書室像について、先生のご意見をお聞かせいただきたいと思います。

### ◆6年間を振り返って

**前田**：早速ですが、先生が6年間会長をなさってこられて、最も印象に残った事業や出来事などあればお聞かせください。また、協議会についてのご意見もあれば、あわせてお願いします。

**白方**：そうですね。6年間を通して感じたことは、まず、皆さん方の働きが、次第に充実し活発になってきていることが、各事業や総会，役員会を通して強く感じています。特に、事務局長の小田中さんを中心に、横の連絡をよくとって、研修会の企画や、雑誌の編集など頑張っておられる。雑誌は4年前から今の形態（年4回発行）に切り替えましたね。各々のどの事業をとってみても着実に発展し

写真：右から白方会長、前田、小田中氏

白方誠彌会長

てきているなという印象をもっています。

その中でも昨年度の20周年フォーラムを立派に成功させたことが印象に残りました。このことは協議会活動のひとつの区切りをつけることができて良かったと思っています。

その他には、ここ3年、公取委の指導もあって、MRによる文献サービスの自粛がありそのことによって、医師が図書室をこれまで以上に利用するようになりましたね。そのことで病院図書室の存在や役割がクローズアップされました。担当者の人は業務量が増えてたいへんだったと思いますが、病院図書室にとっては、とても大きな意味があったと思います。

また昨年の、阪神淡路大震災は大きな事件でした。協議会としても、被災にあった図書室の復興にむけて支援活動なども行いましたね。

振り返ってみて、この6年というのは、協議会の流れの中でも激動と変革の時代だったといえるのではないでしょうか。

そして、忘れてはならないのは、これらの発展を支えているのは、各病院の図書室担当者の方々だということ。本当によく頑張っておられるからだと思っています。必ずしも恵まれた条件ではない中で、いろいろ苦労されながらも、連携・協力しあっていることが、根底にあるからでしょうね。これからも是非頑張ってください。

### ◆病院図書室が役割を果たすには3つの条件が必要

前田：ありがとうございます。続いて、これは古くて新しいテーマでもありますが、病院図書室の役割は何かということでお伺いしたいと思います。この数年、病院図書室をめぐる環境が大きく変化してきています。その中で、病院図書室に求められる役割といえばズバリ何でしょうか。また、そこで働く図書館員の役割についてもお聞かせください。

白方：これはいつも言っているんですが、病院図書室の一番の役割は、病院の職員（これは医師、看護婦、コメディカル、医事課職員・事務職も含めて）のそれぞれの分野のレベルアップにあります。

それにはいくつかの条件が必要でしょう。病院図書室を利用して、職員に勉強するという環境を与えることが、病院全体のレベルアップにつながるんです。つまり、病院のレベルをあげるには、まず、その環境である図書室を整備することが大切です。いつでも、病院の中に図書室があって、そこに行けば本がある。必要とする文献や情報が入手できる。こういう場所を提供することが必要です。病院の中に図書室がなければ勉強するチャンスがなくなるわけですから。これは主には管理者の責任だと思いますが、これが第1の条件でしょう。

第2の条件は、その環境をより良いものへと、整備していくということです。これは、主には担当者である司書の皆さんの仕事だと思いますね。その環境には、ビデオなどの視聴覚ライブラリーなどはもちろんのこと、今後どんどん発達していくであろうコンピュータなどを利用した情報提供などの機能も必要でしょうね。昔のように、ただ本を貸出するだけでない、質の高い情報の提供を整備していくことが大切だと思います。

方法論が大きく変わってきて、昔は図書室に本が配架してあるものを利用者が、それを

読んで勉強するということでよかったんですが、これからは、利用者のリクエストに応えるために、病院図書室の司書の方々が、その時代にあった必要な環境を図書室に整えていく努力が必要となってきているのではないでしょうか。

それから、第3の条件としてこれは将来を展望してですが、病院図書室間のネットワークが、今後全国的に質量ともに発展していくことですね。うまくいくと利用者が求める情報のほとんどがこのネットワーク内でカバーできるようになってくるのではないでしょうか。コンピュータネットワークも広がってくるでしょうし、これからの情報交換も大きく変わってくると思います。今より円滑に情報を入手することが可能になってくると思われますが、意識的にそういう環境を作っていくことが大切でしょうね。

**小田中**：実は協議会の活動でも、コンピュータネットワークの導入を考えておりまして、その具体化の一つにパソコン通信の利用を検討しております。そのため来年度からは予算をたてて準備し、実現を図りたいと考えております。

**白方**：それは必要なことですね。ぜひ進めてください。

### ◆情報は入手だけでなく発信も！

**白方**：それと、これは私の個人的な意見ですが、図書室の将来像として、今、病歴室にスライド作成機を置いているのですが、将来的に、コンピュータを利用しての情報提供がより定着してくれば、図書室の中に学会用のスライド作成の専門家を配置して、病院の職員のリクエストに応えていくことのできる体制も考えています。もちろん、自分でできる人は自分で作ればいいのですが、全員が全員そうではありませんから、「こういう学会発表にしたいんだがどうしたら良いか・・・」という構想をもっていさえすれば、それをわかりやすく工夫して、作成する人を配置することも考えていいのではないかと思っています。

**小田中**：たしかに、情報の入手だけではなくて発信ということも必要になると思います。もちろん、スライド作成もそのひとつでしょうし、最近ではインターネット上での情報の発信も視野に入れていくことが必要になると思います。

私の病院でもインターネットへの関心は高く、サーバーを導入して情報の入手と発信を考えていこうとしているようです。図書室も今後その方向で整備し、コンピュータ関連の充実を図っていくように聞いています。

**白方**：これからの図書室は、これまでのように兼任でやっているという時代から、かなりの人員をそこに配置して、情報センター的な役割を果たすことになってくると思いますよ。要するに医療従事者がほしい情報がそこに行けば手に入る。情報のやりとり、そこを通して情報が内外に流れていくという情報センターとして発展していくのだと思っています。

**小田中**：それとインターネットでは、ナビゲーター、あるいはサーチエンジンと呼ばれるサイトがあり、情報の海で航海する水先案内のような役割を果たしています。ここには、必ず "What's New?"、"What's Hot?" さらに "What's Cool?"などのメニューがあります。つまり、目的の情報源へは世界のどこへでもアクセスできるのですが、さらに情報の内容についてもサービスを提供しています。

これをみていると、図書館も現在のような要求された情報の提供だけでなく、それ以上のサービスが必要となるのではないかと考えてしまいます。新しい情報や話題の情報また面白そうな情報などの提供について、ある程度、図書館員が「水先案内」をすることを考えてもいいのではないかと思います。

**白方**：だからこそ、図書館員の果たしている役割をきちんと理解して、これまでように

片手間であったり、ひとりふたりといった体制ではなく、もう少し強力なスタッフを配置していくことが絶対必要なんです。

**小田中**：そのために協議会としてできることは、教育的、啓蒙的な活動を系統的に進めていくことだと思っています。そして、図書館員がそれぞれに実績を残していくことが大切だと思いますね。

**白方**：それと、今も含めてこれから医学を学ぼうとする人たちは、私たちが大学で学んだ量の少なくても3倍は勉強しなければならないと思いますよ。だから私は、医学部は8年くらいは必要だと考えているんです。いまだに教養以外に4年でしょう。確かに朝から晩まで、医学の勉強ばかりして、それ以外のことはしなかったら身に付くかもしれませんが、現実にそんなことができるわけありません。今の時代は遊びながら勉強する時代です。いくら優秀な人でも、知識を身につけるためには、時間をうまく使って勉強する時には集中して勉強するという能力がないと、実際には、とても覚えられる量ではありません。その上、覚えていかなければならないことは、どんどん増えていきますからね。

そんな時代に、医師が汗水たらして、検索したりスライドを作ったりして時間をそれにあてるなら、その貴重な時間に勉強してもらった方がいいのです。幸いなことに、現在それらをサポートする環境が整い始めているんですから利用しないという手はないでしょう。

なぜ、こんなことを言うかといえば、私などはこれまでどれほど無駄なことをやってきたことでしょうか。たとえば、今は人工呼吸器がありますよね。昔は、泊まり込んで手でアンビューバックを押すんですよ。これは労働ですね。こんなことして頭はよくなりません。これは手の運動でしょ。でもこうするしかなかったんです。

つまり、本当に勉強して患者さんのためになることを身につける時間に、昔は労働をしていたんです。そういう時間は出来る限り取り除いてやって、その時間に徹底して勉強してもらう。その環境整備、主には図書室ですね、そこに病院として力を注ぐ必要があるんですよね。

論文を書く時などでも、昔は文献を探すのに、どれだけの時間をかけたことか。今は、図書室にCD-ROMがありますから便利になりましたね。

**小田中**：さきほどこちらの図書室で、文献検索用のCD-ROMだけでなく、ハリソン内科学や New England Journal of Medicineの CD-ROM版も見せていただきました。

**白方**：研修医などは良く利用しているようですよ。これらの環境を整えていけば、若い医師たちも雑用をすることがなくなって、勉強ができるし恋人とデートする時間もできる。だから、気分を新たにして、また勉強することが可能になるんですね。

科学がこれだけ進んだ近代社会では、人生を楽しみながらも、しかも勉強もきちんとできるという環境にしてあげる。これは、医者だけではなく、看護婦もその他の職種もいっしょです。そして、知識を身につけて患者さんに返していく。このことに、図書室の仕事は大きく貢献してくれています。

**小田中**：先生のお話しを聞いていて思い出しましたが、最近、特に医師以外の利用者から「データは出たのだが、どのように統計処理をしたら良いか、教えてほしい」などデータの処理や研究のまとめ方についても、質問を受けます。これは、表計算ソフトやスライド作成ソフトの使い方を説明している過程で出てくる訳ですが、そこまで図書館員が立ち入るべきかと思うこともあります。ただやはり、困っている場合など、知っている範囲で応えていかざるをえない・・・。

**白方**：将来は、今も進んだ図書室はそうでしょうが、図書室にいる司書さんに聞けば、研究やデータのまとめ方について教えてくれるというふうに、図書館員を病院の職員がそ

う捉えていくことになるのでしょうね。そこには、統計やデータ処理に詳しいスペシャリストを配置することが常識になるのではないでしょうか。

日本はようやく、医療ソーシャルワーカーとか言語療法士などを厚生省の認可が下りようとしてしてきていますよね。それにはちょっと時間がかかるにしても、病院図書業務というものを認可させていくことも大切でしょうね。

**小田中**：確かにそうですね。国レベルで制度化されるのを待っているのではなく、こちらの協議会でもそのような認定試験のようなものを考えてみましょうか。例えば、学会の認定医・専門医試験のようなものを・・・。

**白方**：病院図書館司書試験とかやってみますか。いや、面白いかも知れませんよ。末端で地道にやっていってそれが広がって初めて国は取り上げますからね。みんな認められるまで、すごく時間がかかっているのが現実なんですよ。

### ◆経営からみた病院図書室の役割

**前田**：これからの私たちの頑張りが、病院図書室の現状打開、発展のひとつの鍵となっていくのでしょうね。

それと、これはぜひ先生にお聞きしたいと思っていたのですが、医療経営が厳しくなってくると、病院図書室は不採算部門であるということで、人や予算が削られたりします。その結果、図書室サービスに大きな支障をきたすようなことが起こりがちなのですが、経営面からみての病院図書室の役割とは、いったい何でしょうか。

**白方**：私は、経営が厳しくなってきたから予算を削るとかいった考え方はまったく逆だと思いますね。

病院経営は、そこで働く人の能力によって決まるんですね。いい医者、いい看護婦、いいコメディカルがいれば、患者さんがその病院に集まります。しかし、その逆だとしたら、患者さんは、そこを鋭く見抜きますから、ここの病院の医者は腕が悪いとか、看護婦は能力がないとか・・・。それでは患者さんは集まりません。そうなれば赤字になって病院は倒産します。

ではどうしたら良いか。答えは簡単ですね。優秀な職員を教育する環境を整えることが、大切なのです。実際に図書室はここで大きな役割を果たしてくれています。そう考えれば、図書室は採算部門にむしろ入ってくるんです。教育の元が図書室ですから、決して不採算部門ではないんです。

**小田中**：先生の今のお話では、逆に図書室がないような病院は経営的に危なくなるんだということになりますか。

**白方**：そうですよ。私が、ここの図書室を作る時ですが、いろんな部門が部屋の取り合いでした。その中で、私は「図書室と病歴室は絶対作れ」といって頑張ったんです。その結果、不十分ですが図書室と病歴室が今あるんですよ。その理由は、みんなが勉強しなかったら病院はつぶれると思っていたからです。だから年間予算1000万円をつぎ込んだです。そして、今は研修指定病院ですから研修医は図書室をよく利用してくれてます。もちろんその他の職種もですが・・・。そのおかげで病院が活発になっています。

**小田中**：その他、医療訴訟の問題でも、その時代の医学のレベルがどうであったかが訴訟の時、問題になりますね。一定の情報をその病院の図書室で確保しておくということは大切だと思います。個々の医師の持っている情報だけでは限界がありますので・・・。

**白方**：その通りです。訴訟などの時は、まず図書室で調べてもらいますからね。

**小田中**：先日、病院図書室研究会の創立20周年記念講演で聖路加国際病院の日野原先生がおっしゃっていましたが、地下鉄サリン事件では図書室が情報提供に大きな役割を果たしたとのことでした。直ちに情報収集の班を

組織し、そのスタッフは図書室へ駆け込んだそうです。

白方：なるほど、そうでしょうね。やはり病院図書室というのは、経営面からみても絶対に必要な部署だといえますね。職員のレベルを上げることは、患者さんの信頼を得ることにつながるわけですから。

前田：実際の図書室の担当者は、本当に毎日たいへんで頑張ってはいるんですが、経営者には、なかなか理解してもらえないでいるところが多いと思うのです。理解を得られるようにするにはどういうことをしたら良いでしょうか？。

白方：院長や医師などに理解してもらうことでしょうね。事務系の人は、直接ピンとこないかも知れません。予算を削ることに意義ありと思っていますからね。時間をかけてもコツコツと努力をすることが大切ですよ。

それと図書室の必要性について認めてくれる理解者をもつことです。図書室の必要性を語ってくれる人。どの病院にも理解してくれている人はいるでしょうから、担当者の人が、その人たちの力もかりて地道に前進していくことでしょうね。

小田中：先生のような理解ある院長が少しでも増えればありがたいと思います。そうした先生方にリード役になっていただければ、状況もまた変わっていくのではないかと思います。

白方：当院がなぜうまくいっているかと聞かれましたらね、図書室を立派にしたからだと、院長が言っていたと宣伝してください。

小田中：確かに図書予算は病院の収入に比べれば本当にわずかなお金ですからね。

白方：そうですよ。そのお金で病院が良くなるんですから安いものです。高い医療器機を買うことを思えば本当に安い投資なんですよ。そこに気がついてもらわないといけないですね。

◆患者図書サービスについて

前田：ここ数年間に、患者さんへの図書サービスが、ボランティアの人や公共図書館の人たちの手で活発に進んできています。こうした患者さんへの図書サービスについて、先生のご意見をお聞かせいただければと思います。

最近では、高山赤十字病院や大垣市民病院などが患者ラウンジを作りまして、そこに図書コーナーというものを設置して病院がそういうサービスを行うケースもみられるようになりました。

白方：当院もワゴンに本をのせて患者さんへの図書サービスをしていますが、図書コーナーはいいですね。今はスペースがないからワゴンサービスでの貸出しかしていませんが、もしできたら、そこでゆっくり自由に本が読める場所などあったらいいですね。

前田：少しずつですが、こういう動きがでてきています。

白方：それはとてもいいことですね。進めていくだけの価値はあると思います。

前田：もう一つ新しい動きとして、患者さんへの医学・医療情報（図書）のサービスがあります。これに関する病院図書室の役割についても、議論が始められておりますが、先生はこの点についてどのようにお考えになりますか。

白方：医療情報の提供については、そういう流れなんだと思いますね。今度の診療報酬の改定でも、患者さんへ医療情報を提供すると点数がつくことになったんです。

前田：アメリカの病院図書室の大きな流れは、Patient Information and Education だそうですが、それを図書館がやるべきだとお考えでしょうか？。それとも他の職種・部門がすべきだとお考えなのでしょうか。

白方：そうですね。難しい問題もありますが、私は洗練された医療情報であれば出してもいいと思います。すでに、書店では医療情報の本を売っていますからね。このことは常識になって、これからは病院が医療情報の提

供をおこなっていくことになるでしょうね。そして、医療情報を提供するとしたら、院内では図書館でしょう。

**前田**：これには、院内でのコンセンサスも必要となってくるでしょうね。時間がかかるかもしれません。患者ひとりひとりには主治医もいますし・・・。

**白方**：しかし、口で情報を提供することは医者がしなければならいでしょうが、洗練された、誰がみてもまちがいのない出所のはっきりしている情報を提供することは、いいのではないでしょうか。医者が読むような、この方法はダメだったなどといった類の症例報告などは、患者さんが読むと混乱すると思いますので・・・。

**小田中**：これからは医療の提供者だけでなく、医療を受ける人たちへの医学や医療情報の提供も病院図書室は考えていかなければならない時代になっていくのでしょうね。その場合、情報の選択などにおいて図書室への専門家の協力も今以上に必要だと思いますが。

### ◆会誌「病院図書室」について

**前田**：会誌もすでに16巻を発行するに至りました。会誌「病院図書室」をご覧になってご意見ご感想などありましたらお聞かせください。

**白方**：とても、充実してきていると感じていますよ。たいへんな中、よく頑張っていますね。

これからはこれまで話してきたこと含めてですが、アドバルンをあげたらどうでしょうか。私たちはこう思うという提言を書かれたらどうですか。これは、これからの病院図書室の発展にとても大きな意味があると思います。

**前田**：ありごとうございます。会誌もこれからも頑張っていきますので、またご意見やアドバイスをお願いします。

### ◆近畿病院図書室協議会の今後

**前田**：最後に、これからの近畿病院図書室協議会について、ご意見をお願いします。

**白方**：最初、近畿病院図書室協議会という名称を聞いた時は、近畿地区だけの病院図書室で協議会を構成しているのかなと思ったんですが、実はそうではなくて近畿以外の会員も結構多い。全国的に参加している組織だという現実からみても、名称をこれまでのように「近畿」でいいのかいう問題がありますね。全国的な活動をおこなっていくという気運が高まってきているのでないでしょうかね。全国になれば、病院図書室の存在が常識化されてくると思うんです。病院には図書室があって、そこにはきちんと人を配置してサービスをおこなっているということが当たり前になっていくことにもつながってくるのではないでしょうか。

これは、みなさん頑張るだけの価値はある仕事だと思いますよ。まちがいなく図書館の仕事が病院の機能アップにつながってくると思います。図書と病歴は両輪ですから、これからどんどん伸びると思います。

**前田**：先生、本日は本当にいろいろと貴重なご意見お聞かせいただきましてありがとうございました。とても参考になりました。これからも病院図書室へのご支援ご協力をお願いします。